

サロベツ原野だより

Vol.15 -No.1

【HP】 <http://www.sarobetsu.or.jp> 【E-mail】 info@sarobetsu.or.jp

〒098-4100
北海道天塩郡豊富町
上サロベツ 8662 番地
【TEL】 0162-82-3232
【FAX】 0162-82-1009



目次

お知らせ

1. お知らせ	…P.1
2. 活動報告	
① 氾濫原～湿原になる牧草地～…	…P.2～3
長谷部 真	
② サロベツ湿原…	…P.4～5
子どもパークレンジャー活動	
吉原 努	
3. コラム	
① サロベツ今昔物語…	…P.6
野口 多美治	
② とよとみの民話…	…P.6
豊富高校 郷土研究部編	
4. 事務局からのお知らせ	…P.7～8
① 新職員入職のお知らせ	
② 湿原センター情報 ～新商品のお知らせ～	
③ サロベツ四季の旅	

＼ 新商品 好評販売中！ /

- 2022年の壁掛けカレンダー**
来年のカレンダーが早くも販売開始になりました！サロベツの四季を身近に感じられます。
- シマアオジ耐水ステッカー（メス）**
新たにメスのシマアオジのステッカーを製作し、計3種になりました。
- シマアオジTシャツ（全3色）**
紺・えんじ・濃緑の3色で、各色S～XLの4サイズです。



新商品について、くわしくは7ページを読んでね！

2. 活動報告

① 氾濫原～湿原になる牧草地～ ……生物環境保全部 長谷部 真

雪が多い年の春の4月頃のサロベツ川は、雪解け水で氾濫します(図1)。それもちっと水があふれる程度ではなく、周辺の牧草地が冠水し、一面の沼のようになります(図2)。



図1 氾濫したサロベツ川
豊富町豊徳 2021年4月2日



図2 一面沼のようになった牧草地
豊富町清明 2021年4月2日

しかし、サロベツでは川が氾濫しても洪水警報も災害対策もなく、そのままになっています。サロベツ周辺はほとんどが牧草地なので、農家の方は春にまだ芽が出ていない牧草地の冠水を気にしていないのか(図3)、もしかしたら、上流から流れて栄養分が供給されるので、好ましく思っているのかもしれませんが。ただ、道路が冠水した場

合はさすがに通行止めになります(図4)。



図3 川ようになった農道
豊富町阿沙流 2016年4月4日



図4 冠水した道路
豊富町阿沙流 2018年3月29日

その沼のようになった牧草地を、春に渡ってきた水鳥たちが利用しています(図5、6)。特に開けた水場を好むハクチョウにとってはなくてはならない場所のようです(図7)。牧草地は春のガンカモ類の渡りの中継地として役に立っているようです。

他の地域では、例えば水生生物の生息場所のために冬に湛水している田んぼや、トキやコウノトリのために農薬等を減らしている田んぼなどがあります。ガンカモ類の休み場として役に立っている牧草地にも、補助金や農作物のブランド化によって農家さんに還元されるしくみができればと思います。



図5 沼のように見える牧草地
豊富町阿沙流 2019年4月12日



図6 冠水した牧草地に集まるヒドリガモ
2021年4月29日



図7 オオハクチョウ
豊富町阿沙流 2016年4月9日

他の地域では河川の氾濫は災害となってしまうため起こってはならないこととされていますが、サロベツでは自然の姿を保っています。サロベツでの氾濫は、サロベツの雪が融ける頃の3月下旬から4月中旬頃まで、雪解けや雨などの気象条件によって2-3回起こります。まずはサロベツの雪が融けた頃です。今年は雪が多かったのですが、雪融けが早かったせいか、この洪水はほとんど起こりませんでした。つづいて、サロベツの丘陵地や天塩川上流の音威子府などの豪雪地帯からの雪解け水によりサロベツ川が増水（天塩川の場合はおそらく逆流してきます）して氾濫します。今年の洪水は4月初めに起こりました。雪もほとんど融けてしまったのでこれで終わりかと思いましたが、4月20日頃にもう1回起こりました。この時は雨がたくさん降ったのと、山間部の雪解け水によるものだと思います。

このように氾濫する光景は、サロベツの春の風物詩となっています。今年はドローンを使用して、上空から撮影することができました。（図8）

氾濫は2-3日で引いてしましますが、いつもとは違う風景は圧巻なので、機会がありましたらぜひご覧ください。



図8 氾濫した湿地（ドローンで上空より撮影）
豊富町阿沙流 2021年4月2日

② サロベツ湿原
子どもパークレンジャー活動
……地域環境教育部 吉原 努

当法人では、地域の子どもたちを対象とした活動が2つあります。一つが「なまら！！サロベツ∞クラブ」(以下、なまサロ)、もう一つが「子どもパークレンジャー」(以下、JPR)です。JPRは環境省の委託事業で実施しており、地元の子ども達を対象として、郷土の自然の大切さ、自然に対する思いやりといった豊かな人間性や情緒を育み、利尻礼文サロベツ国立公園の優れた自然環境を将来に引き継いでいくための人材を育成することを目的としています。昨年は3回実施したのでご紹介いたします。

1回目は海岸漂着物を調べる活動を実施しました。まず海岸にどんな漂着物があるか考え、考えたものを8点に絞り、それを実際に回収しました。



それらはどこからどうやって流れ着いたのか、元々あったのかを考えました。まとめの作業では、マイクロプラスチックや世界のゴミの状況等に触れ、今日から出来る「My 宣言」を考えました。



2回目はサロベツ湿原のササについて調べる活動を実施しました。湿原にササが侵入してくるとどうなるのか？それがどんな影響に？なぜそれが起こるのか？皆で考えました。



その後、実際にササ刈り作業に。チーム対抗戦で、それぞれ趣向を凝らしてササ刈りすることで例年と異なり飽きる事なく、もっとササ刈りをやりたい、と一生懸命頑張る子が多くいました。



その後は刈ったササで「サロウィンパーティ」(ハロウィンとサロベツをもじった造語)の仮装物をそれぞれ制作し、パーティをしました。



3回目は世界湿地の日（2月2日）を記念し、稚咲内砂丘林をスノーシューで散策しました。導入として世界湿地の日の話や、砂丘のイメージを全体で共有し、その他稚咲内砂丘林の特徴について学びました。



その後、稚咲内砂丘林の中に入り、木々の特徴を理解するために形を模写するゲームや、動植物の痕跡などを見つながら歩いた他、湖沼の上では雪を掘って、下に湿地が存在することを確認しました。



湿原センターへ戻ってからは、砂丘林に生息する動物たちについてスライドを見ながら学んだ他、実際に歩いて何を見たか、感じたのかななどをチームでまとめ発表しました。



全3回の活動で国立公園の自然の豊かさや抱える問題について楽しみながら考える活動を実施することができました。参加する子ども達の中には、将来国立公園を守るレンジャーの様な仕事に就きたいという子も出てきているので、今後もなまサ口の活動と同様に人材育成につながる活動として継続できればと思っています。

3. コラム

① サロベツ今昔物語

……豊富町郷土研究会
野口 多美治

昭和 32 年 6 月、休学の手続きを取り急ぎよ帰郷する。父母には自ら招いた不明を詫び、弟の勤務する道立鬼脇病院（利尻）へ入院する。

昭和 33 年 4 月、函館の国立七飯療養所へ移る。この療養所は規模が大きく木造二階建病棟が 8 棟あり、多くの結核患者が入所していた。私も入所以後体調が良く、安静時間も看護婦さんの目を盗み玄関わきの小スペースで絵を描いたり、8 月の所内盆踊り大会に出場するなど患者としてあるまじき行動をとっていた。案の定、翌日に再略血を起こしてしまった。医師の勧めもあり、左肺上葉切除術を受けることになった。当時の肺手術は、病巣部位の肋骨をとり、病巣部を砂袋で圧迫し、病巣空洞をつぶし治癒する手術が多かった。しかし肺を直接切除する手術も年々向上し、広範囲の病巣でない患者には肺切除術が実践されていた。ただ亡くなる患者さんも結構いて、いざ自分の番になるとなかなか決心がつかないものです。幸い無事成功して今日に至るが、当時手術後二日目に黄疸を併発し、これが 60 代まで尾を引く事になった。手術時の輸血によるもので C 型肝炎に悩まされた。

昭和 34 年退院、その後 1 年間は旭川の姉の処（カメラ屋）に身を寄せ手伝いをしながら暮らす。本当に親、兄弟姉妹には大変な苦勞と世話をかけてしまい感謝感謝の気持ちでいっぱい有るのみだ。昭和 36 年、兄たちの再援助があり再度美術大へ挑戦、合格し昭和 38 年卒業、教員免許状を取得し北海道宗谷の教員になる。

(～次号へ～)

②

とよとみの民話

道立市立十小

北海道豊富高等学校 郷土研究部

第四話 共同牧場の熊（後編）

板垣さんは、あわてて牧場に向いました。いつもなら牧場の入口で馬が板垣さんを、待っているのに、その朝は、全くその様子がありません。これは大変だ！何かあったのでは！」とドキドキしながら、板垣さんは牧場の中へ入って行きました。そうすると、馬が遠くで寝ているように見えました。「どうしたんだろう。」と思いながら近づいてみると熊が急に立ち上がりました。熊が親馬を食べているところだったのです。板垣さんは驚きと恐怖のあまりその場に立ちすくみました。そしてしばらくしてからようやく「熊が出た！」と叫ぶことができました。そして熊うちの名人である音吉さんと呼んできました。

音吉さんは、さっそく木に登り、熊を撃とうとしました。しかしその時、音吉さんが登っている木に、それを見た熊が「ドスン、ドスン。」と体あたりをしてきました。それで音吉さんは、撃とうとしても、なかなかねらいが、さだまりません。しかし、音吉さんは、少しもおどろくことなくしっかりと熊にねらいをさだめ、とうとう一発で熊をうち取りました。それからというもの板垣さんは決して牛や馬を小屋に入れ忘れることはなかったということです。(おわり)



4. 事務局からのお知らせ

① 新職員入職のお知らせ

……村田朋弥/高橋梨沙/嘉藤慎

村田 朋弥

この度4月から職員になりました、村田と申します。北見で生まれ育ち、その後、江別・釧路と北海道を転々とし、この度ご縁がありサロエコの一員として働くことになりました。学生時代はヒグマを専門に、ヤマブドウ集団にヒグマの種子散布があたえる影響について研究を行っていました。前職では、シカの効率的な捕獲方法の検討の研究業務を行っていました。まだ、来たばかりでサロベツの豊かな自然に圧倒される日々です。わからないことが多くご迷惑をおかけすると思いますが、サロベツの豊かな自然を次世代に残せるよう保全活動等に取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

高橋 梨沙

4月に入職しました高橋と申します。出身は千葉県で、このたび初めて北海道に渡りました。これまでは主に植物園や動物園などの博物館（相当施設）で、標本の作製やガイドのほか、自然や環境、生き物についての教育普及活動を担当してきました。多くの方にサロベツの大自然を楽しんでいただけるよう努力したいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

嘉藤 慎

5月より入職させていただきました嘉藤（かとう）です。出身は埼玉県ですが、父が豊富温泉の出身です。これまでは、東京の建設コンサルタント会社で自然環境を扱う部署にいました。北海道へは何度か来ており、こんな広大な自然環境のある場所で働けたらいいなと考えていたところ、サロベツ湿原センターにご縁がありサロベツ・エコ・ネットワークの一員となりました。これから、サロベツ湿原に生息する動植物の保全活動にとりくみ、また、次世代を育成してゆけるよう努力したいと考えているので、よろしくお願いいたします。



認定 NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

② 湿原センター情報

～新商品のお知らせ～

この春から新たに販売を開始した商品をいくつかご紹介いたします。



1. 2022年壁掛けカレンダー

【サイズ】A3（閉じるとA4）

【金額】800円（内税）

サロベツの広大な大地と自然が織りなす四季の写真を、月ごとにお楽しみいただけます。前年の花の開花日や鳥の初認日も載っているので、お出かけ前にもオススメです。

2. 新しいシマアオジグッズができました！

国内では唯一サロベツ湿原にのみ生息しているシマアオジは、絶滅の危機に瀕しています。このシマアオジを少しでも多くの方に知っていただくため、新しいグッズを製作しました。

① シマアオジ 耐水ステッカー（メス）

好評販売中の「さえずり ver.」「横向き（オス） ver.」に加え、新たにメスのシマアオジをモチーフとしたステッカーです。

【サイズ】直径10cm

【金額】440円（内税）



② シマアオジ Tシャツ

左胸と背中にシマアオジ・利尻山のイラストが描かれたTシャツです。

【金額】1,980円（内税）

【色】深緑、紺、えんじ

【素材】綿100%

【サイズ】S、M、L、XL

	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身幅	49	52	55	58
肩幅	44	47	50	53
袖丈	19	20	22	24

通販も
受付中です！
お申込みは
表紙の連絡先へ！



←前側
↓背中側

③ サロベツ四季の旅

世の中が大きく揺れ、移り変わっていく時代の中、共に繋がり支えてくださっている皆さま、本当にありがとうございます。

日々の様々なニュースや混とんの一方で、自然の中へ身を置くと、粒子のきめ細やかさ、柔らかさ、おごそかさ、深さややさしさを感じます。いろいろなサイクルで生きているたくさんの種類の生きとし生けるものたちを身近にすると、そこからいかに引き離され混乱させられているかを感じ、調律を戻されるような感覚になります。

サロベツは際立つ派手さはないかもしれませんが、四季を通しての美しさと味わい深さがあります。季節はめぐり、今年も光輝く緑の季節となりました。たくさんの生き物たちが誕生し、太陽を浴び、水を飲み、それぞれに精一杯生きる。そしてすべてはやがて土にかえる。奇跡のようなきらめきの連続と、自然の摂理の繰り返し。私はまた、村人たちが勇敢な旅人を出迎え見送るような、あたたかく少し切ない気持ちになるのかもしれませんが。今年もたくさんの瞬間と循環、そしてきっと新しい発見があることでしょう。



NPO 法人

サロベツ・エコ・ネットワークとは？

当法人は、サロベツ及び周辺の自然と地域を愛する人々が集い、自然環境の保全活動、調査研究活動及び環境教育活動を通して、自然と人間との共存の大切さを広く啓蒙し、併せて地域の発展、まちの活性化に寄与し、サロベツ及び周辺の豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的として平成 16 年 5 月に設立されました。

活動の目的にご理解いただき、共に汗を流し、ご協力下さる会員を随時募集しております。あなたの参加が活動を支えます。どうぞご加入ください。

会員になっていただける方は事務局までご一報下さい。申込方法と会費の振込先をご連絡いたします。また、会の運営を支えるご寄附も随時受け付けております。

3千円以上のご寄附は各種税控除の対象となります。詳しくは、表紙に掲載している事務局の連絡先までお問い合わせください。



<現在の会員数（2021年5月9日時点）>

正会員：69名 / 賛助会員：27団体・12個人
サポート会員：115名【合計】223名・団体

※転居等により住所などのご連絡先に変更が生じた場合は、お早めに事務局までご連絡下さい。事務局の連絡先は表紙の上部にあります。